

第47回協議会意見書の内容と回答について (意見抜粋)

■「地域公共交通計画の策定に向けて」について

- 地域内交通を検討していくにあたり、地域主体型交通だけでなくタクシー事業とも共存・連携していくべきである。例えば、タクシー利用助成の導入や乗り合いタクシー(デマンド型交通など)の導入、迎車料金の補助(行政→事業者)なども視野に入れて検討を行うべきである。
 - 一概に地域主体型交通を導入していくわけではなく、タクシー事業者との連携も視野に入れながら、対応方針を検討する必要があると考えるため、「めざすべき公共交通ネットワーク」の地域内交通の考えの中にも、これらを考慮する。
- 中富口バス停の整備に関しては、沿線にある県道の交通量が多く、出入りに相当な注意が必要な為、安全に出入りが出来る場所や広さを確保願いたい。
 - 規定に則り、安全性に考慮した上で整備を行う。
- 「産業や観光等の他分野との連携」の観光とは、具体的にどのような観光を想定しているのか。個別の観光地までの交通なのか、観光地巡りのための交通なのか。
 - 個別の観光地までの交通、観光地巡りのための交通、いずれの想定も考えられるため、現状データやアンケート調査結果等を踏まえて対応を検討する。

■基本理念・基本方針について

- P2 基本理念の考え方にある「地域に根付いた」を「未来を拓く」などの表現に変更することだが、「未来へとつなぐ」としてはどうか。
 - 既存の基本理念の中に「人と人をつなぐ」という文言があり「つなぐ」が重複するため、「未来を拓く」のままとする。
- P7 基本方針4にある「環境づくり」は手段を増やすという意味では問題ないが、今ある手段を充実させるのであれば、「アクセスの充実」の方が良いのではないか。
 - 交通手段を増やす方針に近いことから、「環境づくり」のままで良いと考える。

■めざすべき公共交通ネットワークについて

- 富合エリアは路線バスの交わる別府バス停を結節点にして、地域主体型交通の乗継拠点としてはどうか。
 - ご意見を参考に検討する。
- 今回の計画では観光の視点を盛り込むとのことだが、観光交通としては観光ルート周遊バスが想定されるため、接続先として考えられる高速バスの乗継拠点の整備も検討してはどうか。
 - 観光ルート周遊バスの導入も含めて、高速バス停への接続を検討する。

- 地域主体型交通において、誰もが外出しやすいまちをめざすためには中富口で結節するバスのうち、1本/日でも直接北条市街地への乗り入れが行えれば、外出の機会が増すのではないかと。
 - バス・タクシー事業者やハッピーバス関係者とも協議しながら対応するかを検討する。
- 観光者の利用を促進する 위해서는、地域住民に限定した利用者制限を改正する必要がある。
 - ご意見も参考にしながら、誰もが利用しやすいバス環境を整えることを前提に対応を検討する。

■その他

- 資料 8-5 の P5、右下の四角枠の中の「4.地域内交通」であるが、
 - 現行…1 時間に 1 本以上の各公共交通軸まで行ける
 - 修正…各公共交通軸まで行ける
 - 理由…P.5<めざすべき公共交通サービス>に掲げられたダイヤ本数の考え方と相違しているため。本数が 1 時間 1 本以上無くても、需要に見合う本数と成り得るエリアもある。
 - 修正して対応する。
- 何が一番不便で対応して欲しいのかが必要ではないか。
 - 現状データやアンケート調査結果等を踏まえて、住民が移動に対して何に不便しているかを把握して対応方針を検討する。
- 高齢者及び公共交通利用者へのアンケートに加え、子どもの学校、塾等の送迎を自家用車でやっている者が公共交通利用に展開できないかという観点の調査、アンケートを行って見たら良いのではないかと。
 - 送迎等も含め、現状のお困り状況を把握した上で必要な施策等を検討する。